

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600197		
法人名	社会福祉法人 慧誠会		
事業所名	グループホーム ベルエポック		
所在地	帯広市川西町西1線47番地6		
自己評価作成日	令和 2年10月22日	評価結果市町村受理日	令和 3年 3月 25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174600197-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174600197-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和2年11月16日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ご家族との繋がりをいつまでも継続する事」数年前より、生活の様子や出来事の写真を添えてお手紙にして担当者から毎月お知らせしています。ご家族も楽しみにしており、電話をくれたり手紙の返事をくれたりします。  
 「利用者個々を大切に」いつまでも、自分の力で歩く・自分の力で食べる！事を大切にしています。個々のやる気を引き出すために、達成感を感じてもらう為に、楽しい事・嬉しい事など、日々笑顔で過ごせるよう支援しております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は自然豊かな十勝平野の閑静な農村地帯に位置し、母体法人が運営する福祉施設が多数あるコミュニティを作っている。天窓のある居間は陽光が入り明るく、共有空間には利用者と職員が共同で作った作品や写真を飾って季節感ある雰囲気を感じ出している。コロナ禍で家族や友人・知人との面会制限が長期化する中、特に利用者と家族への関わりを大切に重んじ、写真付きで利用者の変化や様子を手紙にして毎月伝えている。日頃の利用者への関わりと行動について生活歴や人間関係を深く知りながら、利用者との接遇を深めていく様支援している。利用者一人ひとりの残存機能を活かし「歩いたり、食べたり」する事が困難な利用者にも日々丁寧に穏やかに向き合っけてケアに努めている。コロナ禍の中でも利用者中心にレクリエーションや楽しみを提供できるよう努力を惜しまず工夫しながら支援している。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
<b>I. 理念に基づく運営</b>								
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で作った理念を身に付けられる様に取り組んだ結果、法人高齢者部門の「ケア理念」に立ち戻り、それを意識してケア出来る様に努めています。	新たに作成した事業所理念を基に、職員一人一人が日々のケアの目標として努め、母体法人の高齢者部門のケア理念を意識しながら会議等で唱和しながら、日々のケアの向上に反映させている。				
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	見学や実習生を受け入れ、地域との繋がりに努めています。畑作業や散歩に出かけ、地域を感じられる機会を作っています。	コロナ禍で2月末以降外部との面会等職員以外の接触を控えている。感染対策を強化した上で、実習生の受け入れを行ったり、畑作業時には作物の生育について地域住民のアドバイスを受ける等交流を図っている。				
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染対策以前には、運営推進会議にて地域包括支援センターや老人会、町内会等と情報交換を行いながら、地域の現状や、施設が地域に出来る事を共有していました。					
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員には、サービスの状況報告を行い、サービス向上のための意見を頂いています。	地域包括支援センターや町内会、知見者、家族等が出席して年6回開催していたが、コロナ禍後は書面会議として直接資料を参加者へ手渡しし近況を伝えて意見や助言を書面で返信してもらいサービスの向上に反映している。				
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や、生活保護課への連絡を必要に応じて行っています。	管理者は市担当者を訪問して運営状況を報告していたが、コロナ禍により電話相談等で対応している。また、生活保護課のケースワーカーとは連絡を取り合い、利用者の実情を伝えるとともに、不明な点があれば随時電話で相談し、助言を受けている。				
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会会議を工夫して開き、職員間で意識が高まる様にお互いの考えを述べながら支援にあたっています。	母体法人内での身体拘束防止委員会会議はコロナ禍により書面会議としている。事例を元に内部研修を行ったり改善活動を行っている。言葉や態度などで不適切なケアになっていないか、意見を出し合い意識しながら取り組んでいる。				
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	該当例は有りませんが、職員間で意識が高まる様に不適切ケアとはどういう状況かを話し合い、考えを述べあっています。					

グループホーム ベルエポック

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	ご家族・ご本人の状況の変化に伴い、市や地域包括支援センターの社会福祉士の協力を得ながら、制度を活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時には、運営規定や重要事項説明書・個人情報保護等について説明を行い、個別の状況を検討しつつ、理解・納得・同意を頂き、契約を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話連絡の際にご意見を伺っています。利用者・ご家族からの要望を伝えやすいように会話の機会を多く持つ事を心掛けています。	コロナ禍で家族の面会制限が長期化する中で、利用者の心身の状況の変化や日頃の様子や気になることなど担当の職員が写真付きで手紙にして毎月郵送し、要望や意見を確認しながら運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日常の業務の中で意見交換をしながら運営にあたっています。	管理者は日頃から話しやすい雰囲気作りに努めるとともに、日常の業務で感じた事を全職員で意見交換できる「ベルノート」を用い、自由に意見を記入している。改善提案があった場合は会議等で協議し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々の職員が、やりがいを感じられる様に日常の中で改善点を話し合い、整備に努めています。達成感を持てるように、思いついたアイデアを形にしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修・学習会への参加と日常業務を通じてスタッフの育成を目指しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	感染対策以前は研修会で交流する機会があり、他事業所の取り組みを参考にしていました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人のお話やご様子を見て、不安なことや、生活しづらい事がないように、職員間で情報を共有できています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	なるべくご家族のご要望にお応えできるよう、お話を伺ってどのようにしたら実現できるのか職員同士で意見を出し合っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とお話する機会を多く持つようにして、日常生活の中で出来る事・出来ない事・していない事・危険な事、嗜好を職員同士共有し、話し合い支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を畳んで頂いたり、おやつ作りや食事会の準備と一緒に頂く等、その方の得意なことや好きな事に合わせて楽しんで行って頂けるような機会を作っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のご様子を電話や毎月のお手紙等でご報告したり、身体の不調や通院の連絡、事故の際の連絡など密に行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は、外出や他事業所との交流、ご家族との交流が難しかったですが、毎月ご家族にお手紙を書き、ご様子をお伝えしていたので、関係を保つ上で努力しています。	以前は家族や友人、知人の面会や差し入れなどがあり交流継続できたが、コロナ禍により感染予防に努め、法人内での職員との交流、家族へは毎月手紙で利用者状況を伝える等配慮をしている。また、状況に合わせて窓越し面会などを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の際や、余暇の時間などに、複数の利用者の方々同士でお話する機会を作っています。また、お互いの名前を憶えて下さったり、職員がいなくても困っている方に声を掛けてくださる方がいたり、支え合える関係を築いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で契約が終了した後も、退院が近付くと連絡を頂き、必要に応じて入居に関する相談や支援をさせて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当を中心に日々の関わりの中で、ご本人様の思いや意向を確認し、把握に努めています。また、困難な場合は、職員間で検討したり、情報共有し、希望に沿う形を考えるようにしています。	利用者の想いや意向を日々の生活からとらえるようにし、得られた情報は職員で共有している。また、その要望に叶うように職員間で検討しアイデアを出し合い提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にケアマネジャーから情報を頂いたり、ご家族様の協力も得て、入居者様が生活しやすい居室作りや生活習慣になるように心掛けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様に合わせて、趣味の時間を確保したり、居室で休んで頂いたり等、個々に合わせた支援に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて、カンファレンスを行ったり、職員間で情報共有・検討し、作成しています。また、ご家族の意向も確認し、作成しています。	利用者や家族の意見・要望を基に、6ヶ月毎に見直して介護計画を作成し、家族の承認を得ている。コロナ禍により家族によっては電話等で意見を聞き介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の裏面に介護計画を記載し、日々の様子等を記入する事で、介護計画の見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員会議等で、介護計画が現在の状態に合っているかを職員間の話し合いでモニタリングし、介護計画の見直しや支援の変更に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方に運営推進委員になって頂いています。2ヶ月に1度、運営推進会議後に交流会(食事会)に参加して頂き、入居者や職員とも関わりを持って頂ける様に支援しています。今年度は新型コロナウイルスの感染防止の為に、開催する事が出来ていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望を把握し、かかりつけ医との関係を継続出来る様に支援させて頂いています。	利用者と家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。協力医は月に1回定期的に往診があり、利用者の健康管理を支援している。家族の望みにより他の病院受診も支援している。訪問歯科診療も定期的に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化等があった場合は、個人記録に記録して看護職員に伝えて相談させて頂き受診のタイミングなど決めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院からの状況報告をうけて、退院前には話し合いの場を持ち、今後の対応を確認しながら退院に向けて調整をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃からの様子をお伝えしつつ、重度化した状況をご家族にお伝えし、ご家族とお話させて頂き、チームで出来ることなど職員間で話し合っています。	入居時に「重度化した場合における対応の指針」を利用者と家族に説明し同意を得ている。看取りの経験はあるが、利用者の状況に変化があった場合には、随時、家族や医療関係と終末期のケアの支援に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故が起きた時はどうしてこのような事故が起きたのか、報告書に記入し検証を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルがあり職員に確認して頂いています。連絡網を見て自分が誰に連絡するのか一目で分かるようにしています。災害時は連絡網で管理者に報告を行うようにしています。	通常は消防署の指導を受けながら昼夜想定した避難訓練を年2回実施しているが、コロナ禍により、消防署の立ち合いを自粛して火災時の連絡網訓練等を実施している。また、地域住民等の参加も併せて自粛した対応をしている。	地震や河川氾濫などの複合災害時に昼夜による避難や対応等について、職員全員を対象とした研修と職員一人一人の意識向上に向けた取り組みを行っていくことに期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者には丁寧わかりやすい言葉で伝えることを心掛け、一人一人の人格を尊重した言葉かけ、対応を意識しています。	「認知症の人」という考えではなく「たまたま認知症を患った人」という考え方を通して、人格を尊重するケアに努めている。また、利用者の人生経験や人間関係を尊重しながら言葉掛けや接遇に工夫している。	
37		日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者から散歩の希望があった時は、別の職員に伝え早急に対応させて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースで生活して頂けるようにご本人に確認しながら、どのように過ごして頂くかを一緒に考えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その季節に合った服装を利用者様と一緒に選んだり、バリカンでの散髪の希望があれば対応させて頂いています。化粧の希望があればお手伝いさせて頂いたりしています。		

グループホーム ベルエポック

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍に伴い、食材の納入を工夫しています。盛り付けが出来る利用者に盛り付けをお願いし、一緒に準備しています。	コロナ禍の感染対策で屋外食は母体法人から給食対応に変更している。朝食とおやつは独自メニューを作成し対応している。利用者が盛り付けしているが、感染予防に留意しながら食事の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者が食べやすい様に工夫して、摂取量の向上に努めています。水分量の維持のため、好みの味、温度、食器を把握して勤めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて口腔ケアを実施しています。自分で行える方に対して、適宜声掛け、見守りを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見て誘導、声掛けを行っています。つまり立ちが出来る方には見守りや声掛けを行い、可能な限り自立動作して頂いています。	排泄チェック表等から一人ひとりの排泄パターンを把握し、様子観察などそれぞれのタイミングに合わせて声かけ誘導でトイレでの自立排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量が不足しないように気を配り、必要に応じて下剤の調整を医師と相談して行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回を目途に、利用者の気分や体調を確認しながら調整しています。好みの湯温になるよう適宜調整しています。	入浴は週2回を基本とし、利用者の体調を確認しながら、希望する入浴を随時対応できるように支援しており、入浴が苦手な利用者にはタイミングや声かけの工夫等をしながらかんたんに対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の状況に応じて日中に臥床の時間を設け、離床時に元気にお過ごしいただけるよう働きかけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を朝・昼・夕・就寝前に分けて、服用時は飲み込みが出来たかを確認しています。配薬は職員が複数人で確認を行い、誤薬がないように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物などの趣味や出張販売での買い物を楽しんでいます。食事の盛り付け等、出来る事を役割として無理のない範囲で担って頂いています。		

グループホーム ベルエポック

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響で買い物や外食などの支援は難しかったですが、外に散歩に行ったり、畑仕事をしたり、移動スーパーで買い物をして頂いたり、利用者の方たちのご要望になるべく応えられるように支援しています。	コロナ禍であるが、定期的に来る移動スーパーへの見物や買い物、敷地内の畑作業、または散歩などを状況に合わせて行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある方は、移動スーパーで買い物をして頂いたり、職員が代行してご希望のものを購入しています。予めご家族との取り決めで、レシートをノートに貼る支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日プレゼントのお礼の電話をしたい、というご希望を受け、ご本人とご家族と直接お電話をして頂いたり、毎月ご様子をお伝えできるようお手紙を送っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、季節に応じた飾りや、皆さんに見える位置に日めくりカレンダーを付けたりと、季節や日にちがわかる工夫をしています。また、テレビがある所にソファを配置するなどくつろげる空間作りをしています。	共用空間は天窓から陽光が燦々と入り明るく、利用者や職員が共同で作成した季節感ある展示物や行事写真等を飾り居心地よい空間づくりに配慮している。居間のソファでは利用者が相撲や歌謡曲番組を見るなど、くつろぎ有る空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時にあったテーブルやイスの配置、利用者の方々の食卓での配置などを考えて、より良い配置になるように工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が、安心してゆっくりお休みして頂けるように、ベットや家具の配置を工夫しています。必要な方にはセンサーマットを使用するなど安全に過ごして頂けるようにしています。家具は、ご自宅で使っていたものや、仏壇、ラジカセなどご本人の希望のものを持ってきて頂いています。	自宅で使用していたカラオケやリクライニング椅子を持ち込んだり、仏壇や神棚を飾ったり、思い出の品や写真などを飾る等、居心地の良い安心できる居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレへの案内表示、ホールやそれぞれの居室にカレンダーを張るなど、見てわかるように工夫しています。個人情報の同意を頂いた方で、必要な場合には居室に名札を貼っています。		